

---

# 活動家の女

山羊ノ宮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

活動家の女

### 【Nコード】

N3301N

### 【作者名】

山羊ノ宮

### 【あらすじ】

ミラ・シュネトリックは活動家であった。

政府からすれば、自らの立場を覆そうとする危険人物。

当然その命を狙われる立場にある。

そして、彼女は俺の古くからの友人で、殺すべき相手だった。

ミラ・シュネトリックは活動家であった。

政府からすれば、自らの立場を覆そうとする危険人物。  
当然その命を狙われる立場にある。

そして、彼女は俺の古くからの友人で、殺すべき相手だった。

「ここまでだ。追い詰めたぞ」

もはや彼女に逃げ場はない。

一対一ではあるが、何が起ころうと女に出遅れる様な俺では無い。  
「分かったわ。観念するわ。でも、一つだけお願い。私以外の仲間の命は救ってあげて」

「それを決めるのは俺じゃない」

「相変わらず頭が固いのね」

確かに俺は彼女のような自由な生き方は出来ない。

色々なものに縛られ、人の言う事に翻弄される人生。

そんな風に俺は生きるしか出来なかった。

政府の人間になったのも自分の意志ではないが、それでもこの生き方を間違っているとは思わない。

俺は彼女に銃口を向けたまま距離を詰める。

「でも、いいわ。どうせ手に掛かるのなら、貴方に」

彼女の瞳は何処までもまっすぐで、こんな状況でも俺の事を信じているようだった。

恐らく自分の命を救ってくれるとは思ってはいないだろう。

きつと苦しまずに殺してくれる、そんなところだろう。

彼女は瞳を閉じ、その時を待った。

俺は銃を構え、覚悟を決める。

覚悟を決めたはずだった。

引き金は引けず、銃は地に落ち、俺は彼女を抱き寄せ、唇を奪っていた。

「意気地なし」

恨みがましく見る彼女の目を直視できないでいた。

意気地なんてなくても良い。

ただこの胸に彼女への愛があれば。

それだけでいい。

「・・・このままどこかに逃げよう」

「それは出来ないわ」

「何故？」

「今頃仲間が政府の施設を急襲している。私はおとりよ。うまくいつていたら戦果はなかなかのものよ。それに頼りになる人物も手に入れたしね」

「俺は物じゃない。手に入れた何て言い方・・・」

彼女は悪びれなくウインクして見せる。

「もう貴方は私の物でしょ？」

「・・・お前って奴は」

俺は久しぶりに笑った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3301n/>

---

活動家の女

2010年10月9日21時21分発行